

# 公立久米島病院だより



## 久米島おとな健康プロジェクト④9

— 受動喫煙防止条例について⑥ —

### 最終回

病院長 深谷 幸雄

今回は受動喫煙防止条例が施行される  
とどのような効果があるかお話ししまし  
よう。米国のモンタナ州にあるヘレナ市は  
人口68,140人の地理的にやや孤立し  
た都市でした。2002年6月に受動喫  
煙防止法が施行され、施行後6ヶ月間の  
急性心筋梗塞の入院患者は40%減少し  
たのです。その後裁判所の裁定で受動喫煙  
防止法が中止されると、翌年には見事に  
もとの入院患者数に戻ったというのです。  
このような例は他にも枚挙に事欠きませ  
ん。コロラド州プエブロ、オハイオ州ボ  
ーリンググリーン、ニューヨーク州、イ  
タリヤはピエモンテ州、アイルランドで  
も同様の結果が得られています。スコツ  
トランドの2006年の報告にはもつと  
興味があります。診療対象が300万人  
の9病院の急性冠症候群（心筋梗塞、狭  
心症）による入院患者の数が、全面禁煙と  
なる前の10年間は平均3%のペースで減  
少していたのですが、導入1年後には17  
%も減少しました。しかも興味深いこと  
は非喫煙者で21%減少、過去喫煙者でも  
19%減少したのに加え、喫煙者の入院も  
14%減少したのです。如何に受動喫煙防  
止条例の効果があるかわかりますね。今  
国会でも受動喫煙に対して議論がなされ  
ています。反対される方の意見に、居酒  
屋やレストランの売り上げが下がるから

という理由がいわれています。本当に売  
り上げが下がるといふ事がおこるのでし  
ょうか。実は実際にはむしろ売り上げが  
増えるというデータの方が多く出されて  
いるのです。オーストラリアビクトリア  
州たばこ対策センターの Scollo 博士はサ  
ービス産業の完全禁煙に伴う経済影響  
に関する研究調査100件についてその  
研究の質を詳しく検討しました。その研  
究が①客観的指標に基づいているものか、  
②十分に長い期間の研究か、③適切な統  
計指標を用いているか、④経済全体のト  
レンドを考慮した研究なのか、について  
検討したのです。そうしてみると経済的  
影響がありと結論した研究は0となり、  
全て経済的影響はなしと結論づけられた  
のです。そしてむしろ経済的にはプラス  
となる傾向が見られました。印象やデマ  
に惑わされずに議論してほしいのです。  
さてこれで4年と1ヶ月この広報に文章  
を書いてきました。そろそろ私は引退し  
て次回からは田村先生にバトンを渡した  
いと思います。長い間お付き合いいただ  
きありがとうございます。

# 『子育て支援』で『島育て』

小児科医 渡邊 幸

これまで全15回にわたって発達障  
害についてお話ししてきました。難  
しいお話が続いてしまいましたの  
で、少し身近な話題をしたいと思います。

今、久米島で「子育て支援体制  
を整えよう！」という声があがっ  
ています。その一つが「子育てカ  
フェ」です（詳しくは本号の10ペ  
ージをご参照下さい）。

「子育て支援」はその必要度や  
必要な内容が各家庭で異なり、場  
合によっては全くそのような支援  
を必要としない、という人もいた  
りするため、なかなか地域全体の  
課題として捉えられにくいところ  
があります。特に、久米島はもと  
もと子どもを大切にす地域性が  
あり、親戚のみならず近所の大人  
が子どもを見守っていたり、子育  
てを手伝ってくれてきた文化があ  
ります。なので周囲に頼れる親戚  
がいたり、安心して子育てをして  
きた人たちにとっては島に「子育  
て支援」なんて必要なの？と思わ  
れるかもしれません。

しかし、平成26年度の島内の子  
育て支援ニーズ調査では、子ども  
が病気やケガをした際に「できれ  
ば病児・病後保育を利用したい」  
と答えた人が38%、子どもが低学  
年の間に「放課後児童クラブ（学  
童）を利用したい」と答えた人が  
35%など、約4割の家庭で子育て  
支援制度を必要としていることが  
わかりました。また「公共設備に

おむつ交換台や授乳スペースがな  
い」ことや、「子どもが安心して遊  
べる公園等の施設が少ない」こと  
などについて5割以上の人が「困  
っている」と答えていました。  
今島では「移住・定住」を促す  
取り組みをしていますが、そのた  
めには子育てしている家族にとつ  
て住みやすい島であることはとて  
も大事なことです。ニーズ調査で  
出ている様な課題を一つ一つ整理  
し整備して行くことは、安心して  
子育てできる、活気ある島作りの  
土台となります。

4月から月1回で始まる「子育  
てカフェ」では、親子同士の交流  
と共に、このような子育て支援に  
関する情報を発信したり、「こん  
な支援が必要」という皆さんの声  
を集約したりすることを目的とし  
ています。また「家々なれ運動」  
など親の学び合いプログラムなど  
も行っていく予定です。カフェは  
月1回土曜日の開催で親子での参  
加も大歓迎としていますので、普  
段働いていてなかなかそのような  
場に参加しにくい親御さんも行き  
やすいと思います。久米島の子  
育てについて「知りたい・学びた  
い・話したい」という人はぜひ  
行ってみてください。そして、「み  
んなが子育てしやすい島・久米島」  
を考えていきましょう。